

7月10日（水）、5年1組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は「日常を十七音で」です。伝えたいことが伝わるように表現を工夫し、俳句を作ることができるようにすることが目標です。

児童は、事前に俳句を作っていました。そこで、俳句について、十七音からなること、季語が入ることを確認し、自分が作った俳句がそれらの決まりを守れているかを確認しました。また、十七音に入れた言葉を見直し、表現を工夫することを確認しました。

次に、モデル文を使って、表現の工夫について学習しました。モデル文は、「次は勝つ ボールをけて 夏の空」です。児童は、「次は勝つ」という表現や、「夏の空」という表現がカッコいいという発言をしました。その後、表現の工夫として、教師が「例え」「オノマトペ」「擬人法」の三つの例を挙げました。また、モデル文のように、「サッカー」という言葉をそのまま使わないで表現する方法や、言葉の順序を工夫すること、漢字だけでなく、あえて平仮名や片仮名で書くことのよさにも気付かせました。



【モデル文で確認をする様子】

その中で、児童が最も取り組みやすい工夫の「言葉の順序」に取り組みせました。事前に作った俳句の短冊を、はさみで三つに切り離しました。そして、順序を入れ替えて詠んでみました。「ちょっといいかも」とうれしそうな表情をする児童もいれば、「ううん」と難しい顔をする児童もいて、どの児童も自分の俳句と向き合っている様子が見られました。



【俳句を見比べる児童】

次に、言葉の工夫を考えました。思い付いた言葉を、字数などは考えず、とにかくメモをするようにしました。そして、事前に作った俳句の言葉を変更し、新しい俳句を作りました。その後、グループになり、俳句を詠み合いました。中には、「おちて『い』く」「おちて『ゆ』く」はどちらがよいだろうと、一文にこだわるグループもありました。気分はまるで俳人です。



【俳句を詠み合う児童】

最後に、完成した俳句を見直し、プリントに記述しました。満足のいく俳句ができた児童が多く、すらすらと書くことができました。この次の学習で、短冊に俳句を清書することになります。じっくりと向き合った自分だけの俳句は、思いのこもった俳句になることだと思います。

文章を書く活動はいくつかありますが、日本の文化である俳句の世界に触れ、十七音で表現することは、言葉を吟味するという点で、とても大切な学習だと考えます。今後も、物語を考えたり、日記を書いたりする活動は続きます。そのときに、今回の授業を思い出して、言葉を吟味して、より自分の思いや考えが伝わるように、表現の工夫ができるようになればと思います。